

法学部法律学科 2年 A.M  
『砂漠』 伊坂幸太郎 著

仙台の国立大学法学部に進学した北村は、入学してすぐのクラス会で4人の個性豊かな同級生と出会います。そのうちの一人、西嶋に「名前に東西南北が入っているから」という理由だけで麻雀に誘われた北村は、同様の理由で集められた東堂、南、そしてクラス会で彼に最初に話しかけてきた鳥井と親睦を深めていきます。この作品では、彼らが入学してから卒業し、社会人として働くまでが描かれており、麻雀に興じたり、時には通り魔と遭遇したり、実は麻雀仲間に超能力が使える人がいたなんていう非現実的なことまで、様々な体験を通して5人それぞれが成長していく物語です。

卒業の時を迎えた彼らの話の端々に「砂漠」という言葉が出てきます。社会という厳しい世界を砂漠に例えているのです。大学で過ごす4年間は、長いようで本当に短いものだと思います。そんな一時のオアシスを、社会に出てから恋しく思うこともあるかもしれない、それでも厳しい社会で生きていかなければいけないのだと強く思わせる作品でした。大学生のうちに1度読み、社会人になって再度読むとまた違った印象・感想を持つのではないかと思います。

こちらの作品は生田分館で所蔵されていますが、取り寄せ請求をすることで翌日には神田分館でも読むことができます。作品のあちこちに張り巡らされた伏線とその回収の鮮やかさに驚く、伊坂先生の作品『砂漠』ぜひご一読ください。

生田分館：X/080/Sh61/Isa 701157901

